

掲 示 板

2018年度第 3号 通巻第93号 2019年 1月 19日



万華鏡のモミジ翼果

新年が始まります。今年も「フィールドへ出て発見を共有する」ことを積極的に進めていきましょう！

新年明けましておめでとうございます。平成最後の年となりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。昨年は第2期リニューアルで館内だけでなく、屋外も大きく変わりました。今年は博物館としても、フィールドレポーターとしても「フィールドへ出て発見を共有する」ことを積極的に進めていくつもりです。今年の後半には、第3期リニューアルが着工されます。常設展示のA・B展示室が大きくリニューアルされますので、後半までにもう一度見ていただけると嬉しく思います。例えば、新旧の展示の仕方について比較をしたり、博物館開館から20年余り経過した中で蓄積された知見を整理するという点において、今年と来年は「いつもとは異なる視点で博物館を楽しむことのできる」年になると思います。今年もフィールドレポーターの皆さんにとって、発見が多い年になることを願っています。

さて、昨年の秋以降に行った活動についてまだお知らせできずにいました。通巻93号では、びわくフェスをはじめ、秋のアカアカネ調査の報告や、カエデ調査の中間報告についてお伝えします。さらに、スタッフによる体験記や報告を含め、多彩な内容となっています。フィールドレポーターの活動は海外にも広く知れ渡っているのですが、昨年秋にはスタッフが、台湾で行われたシンポジウムにおいて講師として招かれました。グローバル化が進む現代ですが、フィールドレポーター・スタッフが海外で発表したという点において、昨年はフィールドレポーター・グローバル化元年とも言える年でした。詳細は掲示板をご覧ください。

さて、今後の予定ですが、掲示板の最終ページに載せています。フィールドレポーターとして積極的に活動してみたいという方は、第1・3土曜日の午後1時半から博物館交流室で定例会を行っていますので、是非お越し下さい。

フィールドレポーター担当学芸員 大槻 達郎

☒ ☒ . . . ☎ ☎ ☎ ☎ ☎ も く じ ☎ ☎ ☎ ☎ ☎ . . . ☒ ☒

	新年が始まります	大槻達郎	P1	4	カエデ調査の中間報告	前田雅子	P 8
1	ワークショップ開催	FRスタッフ一同	P2	5	「新エコミュージアム」台日シンポジウムに参加	前田雅子	P10
2	秋のアカトンボ調査報告	椋島昭紘	P6	6	伊砂砂神社 550 年の佳節記念	久保和友	P12
3	みちのくかけめぐり	草津 家猫	P7	7	お知らせ	編集局	P13

1. ワークショップ開催

報告：FR スタッフ一同

フィールドレポーターは、2018年びわ博フェスのワークショップに今年も参加しました。開催日は11月18日（日）、第1実験室。今年度第2回調査の「集まれ！モミジ（カエデ）の仲間たち」にちなんでモミジや葉を使って楽しい遊びが出来ないか、スタッフ一同考えました。

- ☺ ラミネート加工のしおり作り ☺
- ✿ スタンプ遊び ✿
- ✂ カエデの葉っぱ 名前あてクイズ ✂
- ☆ 万華鏡コーナー ☆

チョット多過ぎないかという意見もありましたが、何でもやるのがレポーターの良いところです。全部やることにしました。 **題して！「カエデを知って、カエデで楽しもう」**

✿ 受付 担当：大槻



メニューが多くて人手不足を心配していましたが、スタッフメンバーの可愛いお嬢さんが2人、特別参加で大活躍してくださいました。

助かりました。有り難うございました。

予約制や時差制なんかも考えましたが、何時でも何人でもOKのフリー参加に”えいやっ”と踏み切りました。結果は、多少の混雑した時間帯はあったものの、開始から終了まで入場者の途切れることなく、総数 **95名**の方々に楽しんでいた大盛況のワークショップになりました。

✿ 葉っぱ選びとスタンプ遊び

担当：村野、松村

参加者の皆さんには、まず好きな葉っぱを選んでもらいました。大きいもの小さいもの、赤や黄色や緑、パレットいっぱい準備しましたので数も自由に選んでもらいました。

担当のスタッフから台紙をもらって、さあー作業開始です。台紙の一面はスタンプ遊びに使ってもらいます。もう一面がモミジを並べる場所になるのです。

スタンプ遊びは自由です。

スタッフの山崎さんが精魂こめて造り上げたカエデ型の消しゴムスタンプです。

カエデ調査の参考資料に載せられた全種類のスタンプです。これを全部マスターできたら誰もがモミジの先生になれる事間違いなし。





この後、カエデクイズも待っています。

こんな形のもみじがあるの、とチョットびっくりの音が聞こえましたが、みんな上手に押し楽しい仕上がりになっていました。



❁ ラミネート加工の“しおり”作り

作品作り担当：村野、松村

機械担当：井上、中野

しょうずにスタンプの押された台紙に、選んでもらった葉っぱがきれいに並べられました。

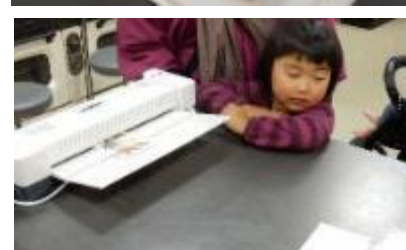
このまらラミネート加工をすれば、立派なシールが出来上がりますが、もう少し工夫してみたいと思います。

葉っぱは曲がったり、丸まったりしていますので平らにぴんとさせます。押し花を作るイメージでやります。和紙で挟んでセラミックの板で押さえます。こういう便利なグッズは実験室に沢山準備されています。薄いサンドイッチが出来上がり。これを電子レンジに入れ、ごく短い時間温めます。押さえの板を外せばピン・シャンとなったもみじやカエデの葉が出来上がり。

台紙の上に丁寧に、工夫しながら、好きなように並べます。ここがセンスの見せどころ。いよいよ仕上げです。

台紙をていねいにラミネートに挟み入れラミネーターにかけます。後は待つだけ。コトコト音を立てながらラミネートが機械に吸い込まれていきます。30秒ほどたつと機械の反対側から作品がでできます。

みんな思った以上の良いできばえで大喜びでした。



❁ イベントを担当して一言 ❁

(しおり作り担当：村野)

色々考えて作ってくれる姿を見て本当に感心しました。

○小学校の高学年でしょうか、とても熱心に長く時間かけてやっている子がいました。

○スタンプコーナーではデザインを考えて良い作品を作っている子が多かったです。

考えなければならなかったのは

□葉っぱが台紙の中に収まりきれずはみ出しているのが結構あったように思います。

もうすこし手を貸してあげた方がよかったかも。

□スタンプコーナーでうばい合いがあって、葉柄(ようへい)がとれたケースがありました。

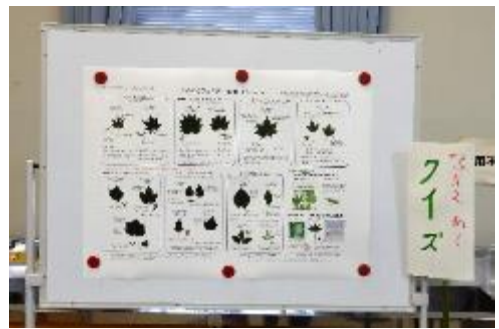
少し残念。いろいろ大変でしたが、とても楽しく出来て良かったと思います。

昨年のように、パネルに張り出してあげ「できあがり展示コーナー」を作ってあげてもよかったのではないかと思います。

❁ カエデの葉っぱ 名前あてクイズ

担当：前田、椛島

机上に11種(しゅ)のカエデの葉と
タネ(翼果)を並べ、それぞれの葉が
どの種・どの名前であるかを答える
「葉っぱの名前当てクイズ」
をしました。



葉の形の特徴で種を見分けるのですが、クイズの参加者は、知識も経験もさまざまです。そこで、初級(小さい子ども向け：机上有る葉のサンプルがワークシートのどの写真と同じかを答える)、中級(一般向け：ワークシートの写真や種名をヒントにして、サンプルの種を見分ける)、上級(植物に親しんでいる人向け：種ごとの特徴が書かれた説明文を読んで、サンプルの種を見分ける)の3種類のシートを用意して、参加者に好きなものを選んでもらう方法をとりました。

『なんだか難しそう…』と思われたのでしょうか、クイズのコーナーを横目に見て通り過ぎる人もありました。でも、やってみると意外に簡単だったようで、チャレンジした人のほとんどが全問正解だったのには、主催者側がびっくりでした。なんと、3歳の女の子が、お父さんの助けを少しだけ借りて最後までやり遂げ、“はなまる”をもらって嬉しそうに帰っていきました。モミジの葉の形を知っていた人もよく知らなかった人も、間違い探しゲームをする感覚で“よく観る”と、他の種との区別がつくのですね。知っているようで意外に知らない“モミジ”、知らないようで実は身近な“カエデ”を、感じてもらえたなら嬉しいです。



ワークショップの開催日は紅葉(こうよう)の見ごろが過ぎた頃でしたが、色づいた葉と緑色の葉の両方をサンプルとして展示することができました。メグスリノキの深紅をはじめ、イタヤカエデの黄色、ハウチワカエデの橙～紅色のグラデーションなど、紅葉・黄葉も楽しんでいただけたかなと思います。

(文 前田雅子)

🍁 万華鏡(まんげきょう)コーナー 担当：井上

今回は万華鏡を三種類用意しました。

一つ目は比較的大型の外筒と鏡を持った本格的な万華鏡です。模様材料は葉の大きさ、色、形が異なる「もみじ葉」をあらかじめ入れておき模様の変化を楽しんでもらいました。

二つ目は外筒にペットボトルを使用しその内部に三角鏡を内蔵した中型サイズの万華鏡です。

三つ目は安価な紙コップを外筒に使用した小型サイズの万華鏡です。

二つ目と三つ目の万華鏡には模様材料を入れる部分にフィールドレポーター独自の工夫を凝らしました。その工夫とは

- ①模様材料を自由に交換できるよう、簡単に取り外しができる蓋（ふた）付きの容器。
- ②模様材料に面白い動きをさせるために、容器の側面に凹凸（おうとつ）を持たせ模様材料が貼り付くのを防ぐ。
- ③模様材料に外光を当てるために、容器を透明な材料にする。

この三つの目的を全て満足できる手段として製菓容器のプリンカップを選択しました。こども達には、葉っぱのトレイから好きな葉を選んでカップに入れてもらい、それを万華鏡に装着して模様を楽しんでもらいました。希望する子達には、小型サイズの万華鏡を持ち帰り用としてプレゼントしました。こども達が自宅で自由に模様材料を取り替えて、模様の変化を楽しんでもらえれば幸いです。



<模様材料を選ぶ>



<私にも見せて！>



<小型万華鏡の外観>[ワークショップ会場、写真担当：津田]



2. 2018年度 秋の赤トンボ調査報告

— 稲刈りの終わった田んぼの周りで、赤トンボと遊びました —

フィールドレポータースタッフ 椋島昭紘

10月13日(土)、今年も秋のトンボ調査を開催しました。場所は、昨年と同じ大津市伊香立南庄町です。ここは8月4日に夏の調査をしたびわ湖バレイから南の方向に約8km(平面地図上)離れていますが、マークされたトンボが飛んでくる可能性もあると期待しているところです。

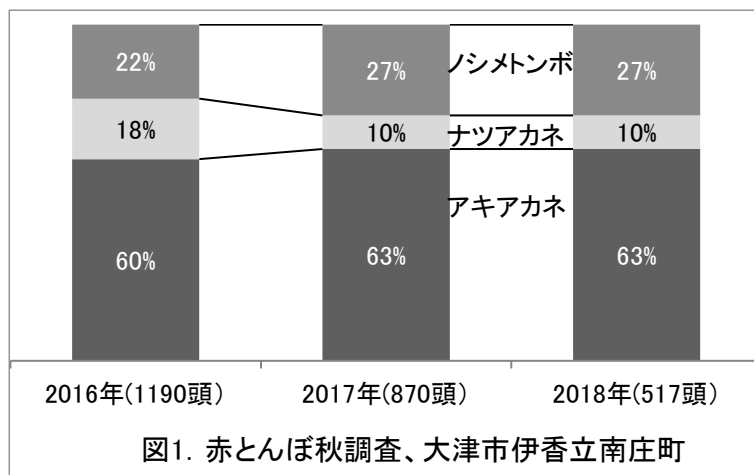
当日は午前中晴れていましたが、調査時刻の13時から薄曇りの空になりました、幸い風はそよ風程度で、9名の参加で調査しました。13時45分頃から14時45分頃まで約1時間調査した結果は、下の表1の通りです。調査したトンボの合計は312頭でした。昨年に比べて、止まっている姿が少なく皆さん探しながらの調査でした。そこで10月21日(日)1時間(12時~13時)、調査しましたところ、205頭でした。今年の調査は合計517頭になりました。残念ながらマーク付のトンボは今回も見つかりませんでした。集計結果は表1の通りです。図1に過去3年の調査結果を比較して示しました。アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボの比率は昨年と同じで、ナツアカネが減っているのかも知れません。アキアカネのオスとメスの比率は表2の通りです。メスが多い傾向で、夏の調査と同じでした。



フィールドレポーターの皆さん、今年はまだ見ることはできませんが、毎年調査していると変化が見えるかも知れません、続けていくことが大切だと思っています。来年、トンボ観察に参加してみませんか。

アキアカネ			ナツアカネ			ノシメトンボ			合計
オス	メス	小計	オス	メス	小計	オス	メス	小計	
138	188	326	20	32	52	52	87	139	517

表1. 今年度調査頭数



	オス	メス
2017年度	49%	51%
2018年度	42%	58%

表2. アキアカネのオス、メス比率

フィールドレポーター原稿「18.11.03」

3. みちのく かけめぐり

草津 家猫

18年11月中旬を過ぎて、私は東北の秋田、山形、岩手、福島をめぐっていました。あわただしく移動する車中からの印象ですが、この地域の雪対策が眼にとまりました。



笠を被せてもらった親狐

今年は東北でも多くのカメムシが、冬眠場所を探していたとガイドさんの説明があり、去年は2匹しか見なかった草津駅前で、私も今年10匹のカメムシを見付けたことを思い、彼ら昆虫も、気候に対応した雪対策をしているかと納得していました。

コハクチョウが田んぼにいました。私がふだん湖南の田んぼで見るカラスのように、田んぼに群れていました。冬をみちのくで過ごす彼らは、昼間は田んぼで、夜間は安全な池や川で過ごすようです。

紅葉も日本海側はすでに散っていましたが、中尊寺は散りはじめたばかりで楽しめました。

人家や畑地にある柿の木には、実を残したままなのが多く、田んぼの広がる景色では、渋柿がみちのくの晩秋の野を彩っていました。

この季節で、17時にはもう真っ暗になり、街灯や民家の明りもまばらです。私の住む湖南地域とは大違い、ここには闇の深さの有ることも知らされたみちのくでした。

金沢兼六園の雪吊りは、冬の北陸の風物詩として広く知られていますが、ここみちのくでは、その雪対策は雪囲いとなるのでしょうか。積る雪から樹々を守るため、板や竹を庭樹の周りに立て回して、幼樹などを囲い込んでいるのが気になりました。

北陸・金沢のような詩情は感じられませんが、雪に鍛えられ実用性を優先する、強靱なみちのく人の思いの現れと見ていました。

カマキリの卵囊も軒下に産み付けられていると聞いて、みちのくの雪の深さに思いを巡らせていました。

会津若松の鶴ヶ城稲荷神社に寄進されている石像の親狐は、赤い布に包まれた笠を被り、子狐は赤い手拭いのほっかぶりをしていて、これも雪対策なのかとほほえましかったです。



しっかり囲われた庭木

4. 「集まれ！ モミジ（カエデ）の仲間たち」調査の中間報告

前田雅子

2018 年度第 2 回のモミジ（カエデ）調査は、12 月末で調査期間を終了しました。紅葉（こうよう）の時期は意外に短いので、出かけようと思っけていても、もみじ狩りに行くタイミングを逃すこともあります。昨秋は“カエデ狩り”を楽しんでいただけたでしょうか。

さて、カエデの木を観察する「調査票 1」について、調査の中間報告をします。観察結果を書き込んだ調査票をまだ手元にお持ちの方は、もうしばらく受付けをしておりますので、なるべく早くお送りください。また、調査に出かけられなかった方は、カエデに対する想いや経験をお尋ねする「調査票 2」だけにご記入の上、お送りくださいますようお願いいたします。

集まった調査票とカエデ標本

12 月 15 日までに、11 人の方から 35 地点の調査票が送られてきました。滋賀県外の調査地（福井県と石川県で各 1 地点）もありました。滋賀県内の調査地点を図 1 に示します。多数の報告を送ってくださったレポーターもおられ、探してみると、いろいろなカエデが身近な場所ですぐに見つかるようです。

調査票に添付された標本や写真を石田さんに同定してもらったところ、カエデ類が 33 地点・延べ 41 本、カエデ類以外が 2 地点・延べ 2 本（タイワンフウ、タカノツメ）でした。“葉の対生”と“翼果”の確認が、カエデ類かどうかの決め手です（調査案内時にお配りした資料「いろいろなカエデ ー葉と翼果で見わけてみようー」を参照）。

以下は、カエデ類が見られた 33 調査地点のデータの集計結果です。

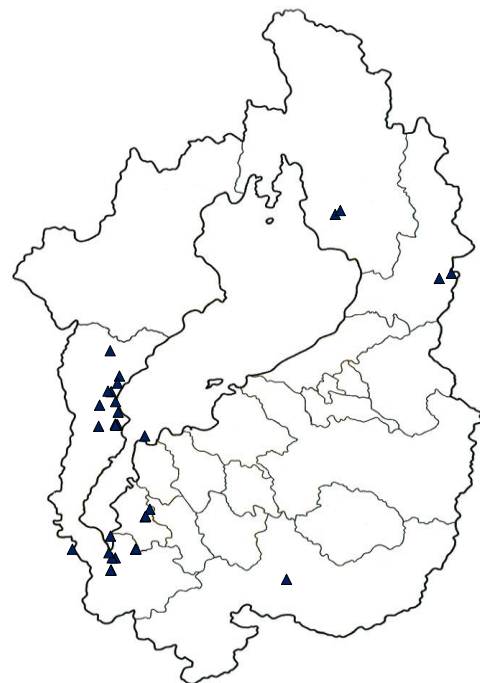


図 1 調査地点
(滋賀県外の地点を除く)

調査地点の 2 割に、複数の樹種

1 地点にカエデ類が 1 種あったのは 26 地点、2 種あったのは 7 地点でした。2 種があった場所は、「山地」「神社」「大きな公園」が各 1 地点、「学校」「住宅の庭」が各 2 地点で、「山地」以外の地点はどこも「植栽されたもの」と記録されています。神社のような広い場所だけでなく、住宅の庭のような狭い場所でも、複数種のカエデが植えられているのが注目されます。今の段階でははっきりとはいえませんが、植栽の場合は、イロハモミジ&他の樹種という組み合わせがあるように思います。最終の報告書でお伝えします。

場所と樹種との関連

33 地点に生えていた樹種は、イロハモミジが 27 本で最も多く、オオモミジ 5 本、ハウチワカエデ 2 本、ヤマモミジ 2 本と続きます。モミジの代表格といわれるイロハモミジが、やはり多く見られるようです。イロハモミジは人が好んで植えてきたことが考えられますが、オオモミジもまた意外によく植えられているようです。生えている場所、樹種、植栽・自生の関連から、カエデ類や紅葉に対する人の想いが見えてこないかなと期待しています。

レポーター調査は自分の住んでいる地域で調べるのが基本ですので、山地的環境の場所である「山林・谷筋」「林縁」は計 5 地点と少なかったのですが、6 種のカエデが観察されました。カエデ類は、山では種類が豊富だそうです。未整理の調査票には、この 6 種以外の種がきっとあるでしょう。

見つけた場所	報告 地点数	モ イ ロ ハ モ ミ ジ	モ ヤ マ モ ミ ジ	モ オ オ モ ミ ジ	カ ハ ウ チ ワ カ エ デ	カ ト ウ カ エ デ	カ ウ リ ハ ダ カ エ デ	カ コ ミ ネ カ エ デ	バ オ ガ ラ バ ナ	ア メ リ カ ハ ナ ノ キ
山林・谷筋	4 地点			1	1		1	1	1	
林縁	1 地点	1								
集落・住宅地の道路脇	1 地点	1								
河原・土手	4 地点	4								
神社・寺	4 地点	4		1						
地域の小公園・広場等	3 地点	3								
庭園・大きな公園	3 地点	3	1	1						
公共施設・会社・店の敷地	3 地点	3		1		1				
住宅の庭	5 地点	4	1	1	1					
街路樹	4 地点	4								
その他	1 地点									1
合計	33 地点	27	2	5	2	1	1	1	1	1

表 1 カエデ類を見つけた場所と、その樹種

Q&A

モミジとカエデの違いは何ですか？ (Tさんより)

「もみじ」「かえで」の語源や歴史に遡（さかのぼ）ればややこしくなるので省略しますが、イロハモミジなどの“モミジ”がつく種（しゅ）も、ハウチワカエデなどの“カエデ”がつく種も、現在の分類上はムクロジ科カエデ属の植物です。つまり、カエデ属というグループの中に、〇〇モミジや〇〇カエデと名づけられた種があるのです。モミジとカエデは、葉の形（3 裂や 7 裂などの裂片の数、切れ込みの深さなど）や、常緑・落葉の違いなどによって、区別されているわけではありません。なお、日本に自生するカエデ属のうち、クスノハカエデ以外は、秋に紅葉（こうよう）または黄葉（こうよう）します。外来種のトネリコバナカエデは落葉しますが、紅葉・黄葉しません。

5. 「新エコミュージアム」台日フォーラム・ワークショップに参加して

前田雅子

台湾では今、一般市民が科学研究活動に参加する「市民科学 (citizen science)」と、地域のひとと博物館が一緒になって環境を守りながら地域社会を発展させていこうとする「エコミュージアム (Ecomuseum: エコロジーとミュージアムからの造語)」が推奨 (すいしょう) され、取り組みが広がっているそうです。

2018年11月26日～28日に台湾で開かれた「新エコミュージアムに関する台日フォーラムー非営利組織による環境学習センターの管理と運営ー」(台北市野鳥学会主催) に琵琶湖博物館の亀田佳代子学芸員とともに講師として招かれ、フィールドレポーター活動を紹介してきました。

《初日のフォーラム》

国立台湾博物館の南門公園で行われた「新エコミュージアムフォーラム」では、海岸に打ち上げられる廃棄物のモニタリングや、新年の野鳥の生息数カウントなど、市民科学活動を行っている8団体の発表がありました。その中で私が特に興味を持ったのは、「我が家の虫住人に関する市民科学活動」でした。家にいるダニやノミ、ゴキブリ、クモなどの嫌われがちな昆虫に焦点をあてた企画展示で、動物と人間の関係さらには生態系を考えさせる点がユニークだなあと思いました。



フォーラムの開会式で (一番右が亀田さん)

亀田さんは「琵琶湖博物館の利用者主体の事業：フィールドレポーターとはしかけ制度」のタイトルで講演をされました。博物館に関わる市民の主体的な活動の場としてフィールドレポーターやはしかけ制度があること、また、その活動を発展させて実を結んだ「種子」から「木」さらに「森」へと育ててほしいと願っている、と話されました。

同じく講演者として招かれた大阪市立自然史博物館の佐久間大輔学芸員は、「科学者と市民は対極にいるものとして考えられがちだが、科学者の中に市民が混じりこんでいるのが望ましい。」と前置きし、60年以上の歴史を持つ「友の会」と2001年にスタートしたNPO法人「大阪自然史センター」の活動を紹介しつつ、博物館に対する市民の力強いサポートと、市民に対する博物館の丁寧な手助けについて講演されました。

《成龍湿地のエコミュージアム》



環境学習で子ども達が描いた壁面

2日目は、台北市から雲林県にある成龍湿地へ移動し、芸術を通じた環境教育が実践されている村を見学しました。現在も地盤沈下が続く村の中を案内してもらい、湿地に設置された芸術祭のアート作品を見たり、教育財団 (エコミュージアム) の人の話を聞いたりしたのですが、申し訳ないことに、その時は芸術祭と環境教育がどうしてもつながりませんでした。帰国後にウェブサイト等で調べると、地盤沈下によって農地が荒廃した村で希望を失

っていた人々が、芸術祭を企画実施する中でコミュニティーを構築して、自分が暮らす湿地に再び価値を見いだすようになったことがわかりました。講演で聞いた「村民が地元を愛していてこそ、環境学習の場所にふさわしい。」という言葉をよく理解しました。

《アオグ湿地でカイツブリ調査》

3 日目はさらに南下して、嘉義県にあるアオグ湿地に行きました。ここは野生生物保全保護区に指定され、多種多様な鳥類が集まる越冬地として知られています。

午前中は、周囲 15 kmの細い道をバスで回りながら、3 地点で野鳥の観察を行いました。国際的な保護鳥のクロツラヘラサギが見られ、へら状の長いくちばしを水につけて左右に動かしながら餌をとっていました。見慣れない大型の鳥はもう 1 種いました。口ばしから首にかけてと、お尻のあたりが黒いこの鳥は、アフリカクロトキだそうです。動物園から逃げ出したものが繁殖しているということでした。



ダイサギとアフリカクロトキ

午後は、フィールドレポーターで行った「カイツブリに会いに行こう調査」を体験してもらうワークショップでした。初めに亀田さんが調査の方法や調査票作成にあたっての注意点を説明され、その後、湿地の観察ポイントに行き、調査票に記入しながらカイツブリの観察を行いました。会場に戻ってから調査結果を地図に落とし、みんなで情報を共有しました。ただ、この日はカイツブリの姿が少なく（会場前の広場には、カイツブリの親子が賑やかに置かれていたのですが…）、その上、非繁殖期で行動のバリエーションが少なかったのが残念でした。最後に、私がフィールドレポーターのカイツブリ調査の結果を紹介し、参加型調査の難しさや面白さについても話しました。



広場に、体長 1.5m のカイツブリ

《台湾博物館で見たカエデ》

南門公園の庭を散策していて、カエデを 1 本見つけました。一見モミジバフウかと思ったのですが、大きな翼果がついていたので、間違いなくカエデの仲間です。葉はモミジ形で 5 中深裂、葉身の長さは 9 cmの大型です。細かい鋸歯があるのでオオモミジのように見えますが、葉柄が葉身よりも長いため、別の種だと思います。野鳥学会の会長さんで植物にも詳しい李さんに尋ねると、「楓香（フォンシャン）」という種だと、教えてくださいました。

台湾では葉の大きい植物が目立つように思います。暑さをしのぐための木陰をつくる、大きくて厚い葉を持った樹種が植えられるからかもしれません。このカエデは 11 月末でも紅葉の気配が全くなく、葉も翼果も青々としていました。いつ頃になったら紅葉あるいは黄葉するのでしょうか。



5 裂の葉と、鈍角に開いた翼果

6. ^{いささ}伊砂砂神社 550年の佳節記念

フィールドレポーター 久保和友

神社は10月21日 社殿神域が550年の節目できれいになりました。境内の秋も近く紅いろに染まります。



伊砂砂神社の奉祝祭のご案内に従い、久保さんがお参りなさって感じられたところを、このような添え状でレポートしていただきました。



伊砂砂神社 2018.12.20 撮影

※ 訪問記 ※

編集局では早速神社に赴（おもむ）きました。

JR 草津駅を出て中山道を東に歩くこと約10分。こんもりとした木立に囲まれた神社が見えてきました。伊砂砂神社です。まずは本殿にお参りし、境内の写真を撮らせていただきました。

神社はすでに新春の準備に入っていました。

御手洗所の横に、神社の案内板がありました。その内容を借用しまして、報告したいと思います。

ご祭神はスサノオノ命、サムカワヒメミコら5柱とされる。この御祭神のお名前と、横を流れる伊佐々川に因んで伊砂砂神社になったという。古来より鎮守の神であったが、應仁3年（1469年）、この地を大干魃が襲った際、村人が雨乞いの祈禱を行ったところ、御神助により雨が降って豊作となった。このお礼として神前で踊りを奉納したのが、此処の「古式花踊り」である。雨乞い祈禱の踊りとして、古来より有名であり、ここ草津の伝統芸能である。

[訪問記・写真：中野敬二]



伊佐々川



中山道沿いの平積石垣(鎌倉時代)



境内のイロハモミジ

10月～12月の活動報告

月	日	内 容	参加者	主な議題・活動
10月	6日(土)	定例会	10名	① カエデ調査資料発送 ② びわ博フェス参加の検討 ③ 海外留学生との交流
	13日(土)	アキアカネ調査	9名	場所：伊香立南庄町、時間（13：45～14：45）
	20日(土)	定例会	12名	① カエデ調査の勉強会 ② びわ博フェス、ショップ内容の具体化
11月	3日(土)	定例会	6名	ワークショップ用品の制作。開催時の担当決定
	17日(土)	定例会	11名	びわ博ワークショップの準備。「葉っぱ類」「スタンピング用具」「万華鏡制作」「パネルづくり」
	18日(日)	びわ博フェス	12名	午前（ワークショップ）会場準備 午後（13：00～15：00）開催（参加者95名）
12月	1日(土)	定例会	12名	① 大キンケイギク調査結果検討 ② 掲示板93号記載内容打合わせ
	15日(土)	定例会	14名	オオキンケイギク調査まとめ・検討終了

H31年 1月～3月の活動予定

	日 時	内 容	場 所
1月	12日(土) 13：30～17：00	定例会	交流室
	19日(土) 13：30～17：00	定例会	交流室
2月	2日(土) 13：30～17：00	定例会	交流室
	16日(日) 10：00～17：00	定例会	交流室
3月	2日(土) 13：30～17：00	定例会	交流室
	16日(土) 13：30～17：00	定例会	交流室

定例会は原則として第1、第3土曜日の13：30～17：00に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、下記の電話・メールで、琵琶湖博物館フィールドレポーター係までお問い合わせください。

編集後記

年度調査のオオキンケイギクは姿を消し、モミジは木の枝だけになっています。正月は少し穏やかでしたが、本番はこれからです。油断は禁物。寒さに負けず風邪にも負けず健康で春を待ちましょう。（中野）



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター
〒525-0001 草津市下物1091
TEL 077-568-4811 (代) FAX 077-568-4850
Email: freporter@biwahaku.jp